

# 行政視察報告書

議会運営委員会行政視察		令和元年10月10日(木)～11日(金)
視察先 及び 視察事項	・令和元年10月10日(木)	(1) 山口県 下関市議会
	山口県下関市議会	ア 議会改革について
		ア (ア) 市出資法人への市議会の関与
		ア (イ) 議会業務継続計画(BCP)
		ア (ウ) 市民と議会のつどい
		イ 議会施設について(議場・委員会室・会派
		控室など諸室及び電子表決システム等設備の
		視察含)
		イ (ア) 施設の計画、設計に当たっての市議会の
		の関わり方(要望等)
		イ (イ) 施設整備の基本方針・設計方針
		イ (ウ) 各施設(諸室)の概要(面積・設備等内
		容)
	・令和元年10月11日(木)	(2) 広島県 呉市議会
		ア 議会報告会について
		ア (ア) 概要、課題及びその対応
		ア (イ) 常任委員会所管事務調査(テーマ)の
		報告と報告結果の活用
		イ 市議会だよりについて
		イ (ア) 概要
	イ (イ) 一般質問の掲載(紙面割合、留意点)	
	イ (ウ) 配布状況(対象、方法、設置場所)	
	イ (エ) 紙面内容に係る市民からの意見聴取	
	(取組み状況、具体的な結果等)	
	ウ 市議会の災害対応について	
	ウ (ア) 災害発生時の対応要領	
	ウ (イ) 平成30年7月豪雨災害への具体的な対	
	応	
	エ 新庁舎建設に伴う議会施設の整備について	
	(議場・委員会室・会派控室など諸室及び	
	電子表決システム等設備の視察含)	

	(ア) 施設の計画、設計に当たっての市議会の関わり方（要望等）
	(イ) 施設整備の基本方針・設計方針
	(ウ) 各施設（諸室）の概要（面積・設備等内容）

## 1 下関市

### ア議会改革について

表記表題について事務局より説明を受ける。市出資法人への議会の関与については定数9名、会派割り当ての特別委員会を設置して7～8月の閉会中の継続審査とし、法人の役員などの参考人招致などを経て、12月定例会で委員長報告を行っている。成果として直接の説明を受けることで理解が進む、また、課題として指定管理者が説明者となるので、理事者の考えとは異なる。

監査委員との調整に対しての質問に対しては、調整が必要との認識であった。

BCPに対しては基本的な災害時の議員としての行動マニュアルの域を出ないと感じた。又、4月の統一地方選挙で3分の1の議員が入れ替わり、今後研修を通じて内容の充実を図る、との事である。基本的に会派内で情報集約を行い、だいひょうが事務局との連絡に当たる。情報のやり取りはメール。

市民と議会の集い、として報告会が開催されている。30年度は常任委員会主導で開催し4会場で80名を超える市民が集まった。始まった平成24年度には200名を超える参加者があったが、参加者の減少と高齢化、若者、女性の呼び込みは課題。

### イ議会施設について

新庁舎建設に伴う議会設備の検討に当たっては、特段の検討結果は説明されなかった。議場では、まず、異常に傍聴席と議場のフロアレベルが違い、傍聴席から議員が見えない状況である。完成するまでわからなかった、との説明があり、首を傾げた。7～8階を議会棟として使用しており、市民との距離感をうまく説明するのが困難かな、と感じた。議員控室は執務スペースとしては不足と感じた。

## 2 呉市

### ア議会報告会について

議会報告会は会派政策責任者と副議長で構成される政策研究会で運営方針を決定し、各常任委員会で企画、実施。22年度から実施、23年度では16会場で850人余りの参加、29年度では320人。各種団体対象に企画など、工夫をしているが、参加者の減少は否めない。『今の議会に満足しているからじゃないかな』との考え方も一つの方向。参加者も量より中身、とも感想があった。

常任委員会の所管事務調査については、常任委員会任期 2 年、委員長も 2 年の任期の中、充実した調査が可能と思われる。全会一致について、特に問題になったことはない。

#### イ市議会たよりについて

明るい紙面で見やすい広報になっている。事務局担当者の個人スキルによるところが大きいとの説明であったが、見たくなる紙面づくりになっていると感じた。配布状況などについては、本市と大きな相違点はない。

#### ウ市議会の災害対応について

平成 30 年の災害対応について説明を受けたが、タブレットによる情報収集と発信が効力を発揮したとの話。会派ごとに意見集約をして、事務局を通しての理事者への対応であった。議会側の窓口の一本化を主たる狙いとしている。

9 月定例会の会期短縮、代表・一般質問の取りやめ等、事前に研究しておく必要性を感じた。議員から事務局へ 574 件、事務局から議員へ 520 件の情報のやり取りがあり、全てタブレットにて行われた。本市で使用しているタブレットより、もう一回り小型のもので十分であり、災害時の取り扱いを考えると工夫する必要を感じた。

『先進地視察で、個々の議員への対応に苦慮した、との話から、このシステムにした』との説明は、説得力があった。

#### エ新庁舎議会設備について

施設要望については、会派代表者会議において議論した。広くて明るい議場、傍聴席との距離、高さも適当であった。

1 日 1 委員会を基本としており、委員会室もゆとりある空間になっている。個別応接スペースも各日されており、会派控室も執務スペースと打ち合わせスペースが確保できている。文化施設を思わせる外観も、呉市の雰囲気醸し出す要因になるのでは、とさえ感ずるところがあった。

令和元年 10 月 18 日

松本市議会議長 村上幸雄様

議会運営委員 上條 俊道